千葉県 TEACCH プログラム研究会
2025 年 12 月 7 日(日)第 136 号

発行：千葉県 TEACCH プログラム研究会広報部
ホームページ：http://www5e.biglobe.ne.jp/~teacch/site17.htm
事務局：千葉県発達障害者支援センターCAS 内　　TEL :043-227-8557

第 4 回　連続セミナー
「ASD の子育てを振り返って」
知的障害のない ASD の子どもの母親（保護者）

１０月の連続セミナーでは、ASD のお子さんの母親であり、社会福祉士・公認心理師・臨床発達心理士としても活躍されている保護者の方にご講義いただきました。今回は、ASD のお子さんの母親として直面された困難、それを乗り越えるために取り組まれた工夫や実践についてお話を伺いました。お子さんがより良く生きていくために、さまざまな側面からアプローチされているお話を通して、実際に行動することの大切さを改めて感じ、大変感銘を受けました。

乳幼児期　乳児期には、睡眠と覚醒のリズムが比較的はっきりしていたが、長時間起きていて、なかなか寝ないこともあった。また、気持ちの切り替えが苦手で、一度始めた活動をなかなかやめられない場面も見られた。言葉の裏にある意味や比喩的な表現の理解が難しく、文字通りの意味で解釈してしまう傾向もあった。人との関わりについては、社交的な一面がある一方で、集団保育や教育の場では不適応行動が見られ、環境に慣れるまでに時間を要した。また、人との関わりよりも物への興味・関心が強い傾向が見られた。

小学校低学年　学校のルールを十分に理解していない様子が見られた。忘れ物が多く教師から注意を受けることがあり、次第にいじめやからかいの対象となる場面も見られるようになった。

小学校高学年　不登校となり、適応指導教室に通うようになった。その後、転校したが、転校先の学校でも周囲から不適切な言動を受けることがあった。このような状況を受け、保護者は学校や行政に相談をし、通級指導教室や教育相談室の利用を開始した。また、よこはま発達クリニックを受診するようになった。

中学校　通常の学級と通級指導教室を併用した。中学校では、担任、通級の先生ともに理解があり、環境に恵まれ、学校生活が安定した。また、友人関係も広がり、交流の輪が広がっていった。

高等教育から現在　高等専門学校に入学したが、合理的配慮を受けられず、テスト時間に間に合わなかったり、試験会場を間違えたりするなど、試験を受けられないことがあった。その結果、毎年、留年を重ねることになった。一方で、友人関係には恵まれ、自己肯定感が高まり、本人の気持ちに前向きな変化も見られた。しかし、最終的に卒業には至らず、通信制高校へ再入学した。その後、大学に進学し、４年次には合理的配慮の申請を行いながらアルバイトにも挑戦した。卒

業後は就労支援事業所を通じて就職したが、勤務先で合理的配慮を受けられず、また、十分な理解も得られない中、うつ病を発症し休職することになった。自宅療養を経て、デイケアに通った。その後、職業訓練校で学びを続けた。現在は再就職を果たし、社会生活を送っている。

障壁となったこと　社会の中では、「親の育て方の問題」として捉えられ、親に対して厳しい視線が向けられることもあった。また、「障害を持った子の支援は生涯にわたって続き、終わることはない」という言葉を聞いた当時は、大きなショックを受けた。さらに、自分と異なる特性をもつ人々の人権を尊重する意識が社会全体としてまだ十分に高いとは言えず、支援要請を却下される場面や教員・周囲の理解不足に直面することもあった。

利用した支援機関

〇医療→　ＳＴの指導、自己理解勉強会、デイケア

〇教育→　教育相談、通級指導教室、学生相談、就学支援

〇福祉→　障害者職業センター、就労移行支援、障害者就業・生活支援センター、職業訓練校

用いたツール

〇多角的構造化　〇ヘルプブック（完璧ではない社会行動や手順、ヘルプの求め方などを記載）

〇エンパワーメントブック（心を落ち着けることができるお守りのような物）

〇コミック会話（相手の心を考えるワーク）

SST（ソーシャルスキルトレーニング）は中学生以降になると、思春期特有の課題や親子関係の問題が加わり、また学校で過ごす時間も長くなるため、実施する時間をとることが難しくなった。そのような中で、特に、中学校の担任、通級の先生は、視覚的に構造化された教材や支援ツールを作成してくれ、協力しながら支援を続けることができた。

合理的配慮とは　思いやりで何かをしてもらう「配慮」ではなく、ルールややり方の変更・調整のことである。本人が支援を受ける際に自分は大切にされていると感じること、小さい頃から本人が合意や納得の上で支援を受けてきた経験は、社会人になった後の適応にも大きく影響する。

まとめ　最も大切なことは、本人や保護者が支援要請（ヘルプ）を出せることである。周囲はヘルプを出している人を無視せず、しっかり受け止めてほしい。情報提供や説明は、本人が余裕を持って処理できる量に心がけ、また、選択の機会を作り、本人が考え、選べるようにすることも重要である。加えて、親の考えは、本人に強く影響を与えるため、十分に注意する必要がある。

千葉県 TEACCH プログラム研究会第６回連続セミナー紹介

日時：２０２５年２月１５日（日）１４：００～１６：３０

内容：家庭・学校・施設の実践報告（仮）

講師：保護者・学校教職員・施設職員

会場：千葉県教育会館２０３会議室（千葉市中央区中央４－１３－１０）

【編集後記】講義では、学校をはじめとして、周りからの理解のなさから、つらい思いをたくさんしてきた事実が伝わり、ASDの保護者の大変な現状を身にしみて感じました。その様な中、保護者の方の現状を打開しようとＴＥＡＣＣＨプログラムの方法を取り入れたり、学校や行政に現状の打開を働きかけたりする行動力に共感し、また行動することの大切さを痛感しました。自閉症の方やその保護者の方が労せずに生きやすい社会になるように願います。（浅井）